

4/20

シンガーソングライター JUN さんが一日消防署長に 住宅火災予防を呼びかけ



シンガーソングライターのJUNさんが千歳消防署の一日消防署長に就任し、住宅火災の予防をPRしました。一日消防署長は、春の市民火災予防運動（4月20日～30日）に合わせイオン千歳店で行ったもので、坂口消防長から辞令を受け取ったJUNさんは、笑顔で来場者にあいさつ。消防本部予防課の近藤 敏彦 係長とのトークショーでは、住宅用火災警報器の設置や定期的な点検を呼びかけました。終盤には自身の楽曲を歌唱し、会場からは大きな拍手が送られました。最後にJUNさんは、「イベントを通して家庭での火災予防につながるよう、学んだことを一つでも持って帰ってくれたら」と話していました。

4/14

観光シーズンの幕開け 支笏湖湖水開き



春の観光シーズン到来を告げる《支笏湖湖水開き》が開催されました。今年も、遊覧船から湖へカギを投げ入れるセレモニーは中止となりましたが、支笏湖神社で行われた安全祈願祭には、支笏湖観光関係者約70人が出席し、湖上の安全や千客万来を祈願しました。支笏湖祭り実行委員会（主催）の小林 典幸 委員長は、「これからも豊かな自然を守り、訪れたすべての方を魅了し続けたい。そのためには、支笏湖ルール（支笏湖の利用方法）を守り、安全に楽しんでほしい」と呼びかけました。

4/1

令和6年度新規採用職員入庁 51人が新たな一歩



4月から新年度がスタートし、市の新規採用職員が入庁しました。令和6年度の新規採用職員は、消防職、医療職を合わせて51人。4月1日に開かれた辞令交付式にて辞令を受け取り、市の職員としての一歩を踏み出しました。生涯学習課に配属された工藤 大翔さん（写真左）は、「初めて千歳に住むので、働きながらまちのことを知っていきたい。フレッシュさを武器に頑張ります」と決意。障がい者支援課に配属された山西 真央さん（写真右）は、「皆さんに《千歳のまーちゃん》として覚えてもらえるよう、明るく元気に笑顔で頑張ります」と話しました。

4/8

千歳市初 民間運営の子どもクラブ 《パレットの子》オープン



東千歳地区に民間運営の子どもクラブ《パレットの子》がオープンしました。同地区には市営の放課後の居場所がないため、子どもたちが一人で過ごしていることが課題でした。そこで、勝保 憲幸 会長を筆頭に、東小中学校の父母会が発起してパレットの子を設立。休所している東千歳保育所を改装し、開設されました。パレットの子は、中学生も受け入れ可能であることが特徴です。東千歳保育所に小学校入学前まで通っていた愛澤 綾香さん（東小6年）は、「みんなでここに戻ってきたという感覚。『この遊び道具、使ったなあ』と懐かしい気持ちになった」と振り返り、「初めて会う人ともたくさんコミュニケーションをとりたい」と話していました。

4/7

日本航空高等学校北海道が開校 新入生が笑顔をお届け



市内3校目の全日制高校、日本航空高等学校北海道が開校し、入学式が行われました。同校は、通信制課程から移った上級生のほか、1年生42人でスタート。生徒の希望進路に対応した5つのステージを設置しており、台湾やモンゴルなどアジア圏からの留学生も在籍しています。入学式後のホームルームでは早くも和気あいあいとした様子が見られ、自己紹介タイムで一発芸やダンスを披露する生徒も。キャビンアテンダントステージに進学した飯塚 紗菊さん（富丘中出身）と北嶋 つくしさん（青葉中出身）は、将来の夢を「客室乗務員になること」とし、入学の抱負として「千歳で一番の笑顔をお届けします！」と爽やかに話してくれました。

人のうごき

《総人口》
97,836人（+663）
男性 49,739人（+468）
女性 48,097人（+195）
《世帯》52,603世帯（+648）
（ ）内は、前月との比較です。

5-1
現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

百 ちとせ空港 年物語

手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る

Vol.13

飛行場誘致への道

「北海」第1号が飛来した翌年の昭和2年8月、今度は北海タイムス社の操縦士、永田重治が操縦する「北斗」第5号が千歳着陸場に着陸しました。

千歳村は、着陸場を永続的な飛行場として活用したいと考え、以前から行っていた飛行場誘致活動を強化。政府に対し、

「北斗」第5号飛来の様子

飛行場設置の請願書を数回にわたり提出します。一度目の挫折と陸軍飛行隊誘致への転換

昭和7年4月に提出された「空輸計画ヲ伴フ飛行場建設ノ儀ニ付請願」では、土地が平坦、札幌へ至近、火山灰体積地であるため地盤が強く、積雪が少ない、鉄道で物資を輸送できる、王子千歳

川発電所の電力が利用可能など、地理的な優位性をアピールするとともに、「計画に必要とあらば、土地を無償で提供すること」とわいたの付言をしています。

ところが、その甲斐なく政府は、「北海道の基幹飛行場は札幌に建設する」との決定を下します。当時の飛行機が今日のものとは比べて小型であり、広大な飛行場面積を必要とせず、騒音もそれほど問題にならないことから、利用者の利便が優先された結果でした。

落胆した千歳村は、陸軍飛行隊の誘致へと方針を変更。着陸場を演習にも使用できる飛行場として整備するべく、大規模な工事に着手しました。